

2023 年度渡り鳥保全調査事業報告

－福井県指定鳥獣保護区の鳥類相－

福井県自然保護センター*1

要旨：2023 年度に、福井県内の 3 か所の福井県指定鳥獣保護区において、鳥類相とその繁殖状況を調査した。定点調査およびラインセンサス調査により 3 か所でのべ 6 日間実施した結果、9 日 28 科 60 種の鳥類の生息を確認した。希少な種としては、ハヤブサの生息が確認された。鳥獣保護区における定期的な鳥類相調査は、行政上の必要性だけでなく生物多様性の長期的・広域的モニタリングの視点からも有益であり、今後も継続して実施していく必要がある。

キーワード：鳥類相, 定点調査, ラインセンサス調査, 鳥獣保護区

Fukui Nature Conservation Center *1. 2024. Results of the fiscal year 2023 bird census: Avifauna of wildlife protection areas in Fukui prefecture. Ciconia (Bulletin of Fukui Nature Conservation Center) 27:13-16.

We conducted a survey to study the avifauna and their breeding status at 3 wildlife protection areas in Fukui prefecture during the fiscal year 2023. In all 60 bird species (belonging to 28 families and 9 orders) were recorded at 3 sites over a period of 6 days by a spot-census survey and line-census survey. We then observed the inhabitation of rare species, including *Falco peregrinus*. Periodic avifauna surveys in the wildlife protection areas must be continued to provide administrative benefits and help in the long-term monitoring of biodiversity on a regional scale.

Key words: avifauna, point-census survey, line-census survey, wildlife protection area

はじめに

鳥獣保護区は、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」(環境省 2015)にもとづいて、鳥獣の保護を図ることを目的として指定されるが、その指定、管理等を適切に行うために、既設の鳥獣保護区やその新規指定の候補地となる地域において、鳥獣の生息状況等を調査することが、環境省告示による「鳥獣の保護及び管理を図るための事業を実施するための基本的な指針」(環境省 2021)において定められている。

福井県では、カモ科鳥類の生息調査(1969 年～)や渡り鳥保全調査(1977 年～)によって、県内における鳥類の生息状況を調査してきた。このうち、既設の鳥獣保護区等を対象とした集中的な調査が実施されている(福井県自然保護センター 1995a, 1995b, 1996, 1999, 2001, 2002, 2009, 2010a, 2010b, 2011, 2012, 2013, 2022, 2023)。本稿では 2023 年度に実施した渡り鳥保全調査事業の結果について報告する。

調査地と調査方法

調査は春季と秋季の 2 季に分け、春季は 2023 年 5 月 24 日から 6 月 10 日まで、秋季は 2023 年 9 月 22 日から 10 月 26 日までに 3 か所で実施した(表 1, 図 1)。調査地点は、2024 年度に鳥獣保護区の指定期間が終了する地点を選定した。のべ調査日数は 6 日間であった。調査はスポット(定点)センサス法とラインセンサス法を組み合わせる方法により、各地点 1 回約 2 時間半程度の調査を実施した。調査スポット点数は調査地点ごとに 2 点、調査ルート本数は 1 本、調査ルート 1 本あたりの距離は 1.7~2.5 km であった。調査は野鳥の同定、観察に習熟した日本野鳥の会福井県の会員が分担して行った。調査の時間帯は鳥類が出現しやすい朝方とし、各調査地に設定したスポットで調査し、スポットからの距離は限定せず目視やさえぎりなどで確認できた鳥類について、種ごとに個体数を記録した。さえぎりや餌の運搬などの繁殖行動を確認した際は、その行動についても記録した。また、調査地点において確認された哺乳類も記録した。なお、鳥類の種の分類は「日本鳥類目録改

* 執筆者・連絡・別刷請求先 (Corresponding author) : 五十川祥代 Written by Sachiyo ISOKAWA. E-mail: s-isokawa-d9@pref.fukui.lg.jp

1 〒912-0131 福井県大野市南六呂師 169-11-2

Minamirokuroshi 169-11-2, Ono, Fukui 912-0131, Japan.

表1 調査の概要

調査地名	3次メッシュ番号 [†]	緯度 [†]	経度 [†]	標高 [†] (m)	調査時期	調査年月日	調査者	スポット数(地点)	ルート踏査距離(km)	確認種数 [‡] (種)	春秋計 [‡] (種)	確認個体数(個体)	春秋計(個体)
朝日鳥獣保護区	53367150	35.963558	136.125138	17	春季	2023/5/24	藤本尚子・横山大八	2	2.5	29	36	193	382
					秋季	2023/10/26	藤本尚子・横山大八	2		22		189	
三ノ峰鳥獣保護区	54360583	36.068486	136.669708	1,581	春季	2023/6/10	三原学・村上公輝	2	1.7	20	31	107	132
					秋季	2023/10/7	三原学・村上公輝	2		14		25	
平家平鳥獣保護区	53366308	35.837525	136.480054	774	春季	2023/6/3	三原学・松村俊幸	2	1.8	24	29	97	160
					秋季	2023/9/22	三原学・五十川祥代	2		18		63	

[†]3次メッシュ番号、緯度、経度、標高は各調査地におけるスポットのうちの1つを示した。座標はいずれも世界測地系。

[‡]「メボソムシクイ上種」など、種が特定されていないものは確認種数に計上していない。



図1 調査地点の位置

訂第7版」(日本鳥学会目録編集委員会 2012)に、哺乳類の種の和名、学名は「世界哺乳類標準和名目録」(川田ほか 2018)に従った。

結果と考察

本調査により、9目28科60種の鳥類が記録され、繁殖行動が4目16科34種の鳥類で確認された(表2)。

本調査で確認された鳥類のうち、国レッドリスト2020(環境省 2020)もしくは福井県レッドデータブック(福井県安全環境部自然環境課 2016)の掲載種は以下のとおりである：

オオアカゲラ *Dendrocopos leucotos* (県・地域準絶滅危惧)、オオムシクイ *Phylloscopus examinandus* (国・情報不足)、カヤクグリ *Prunella rubida* (県・要注目)、キバシリ *Certhia familiaris* (県・地域準絶滅危惧)、クロジ *Emberiza variabilis* (県・地域個体群[繁殖])、コシアカツバメ *Hirundo daurica* (県・地域準絶滅危惧)、サンショウクイ *Pericrocotus divaricatus* (国・絶滅危惧II類、県・要注目)、ツミ *Accipiter gularis* (県・地域準絶滅危惧)、マミジロ *Zoothera sibirica* (県・要注目)、ヤブサメ *Urosphena squameiceps* (県・要注目)、ヤマセミ *Megaceryle*

lugubris (県・地域準絶滅危惧I類)。

また、本調査のうちすべての調査地点と調査時期で、ウグイス *Cettia diphone* が確認された。ウグイスは本県ではほぼ周年観察される種である(福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会 1998)。

三ノ峰鳥獣保護区について、秋季の確認個体数が少ない要因として、調査時の強風と低温が考えられる。調査時間終了後、晴れ間が見えるようになると鳥類の鳴き声や姿が多く確認されるようになったため、参考のために結果を記録したところ、スポットおよび調査ルートにおいて1目6科9種の鳥類が10個体確認された(表3)。

また、調査中に下記の哺乳類を目視および痕跡で確認した：

(朝日鳥獣保護区)

ニホンジカ *Cervus nippon*.

(三ノ峰鳥獣保護区)

タヌキ *Nyctereutes procyonoides*, ツキノワグマ *Ursus thibetanus*, アナグマ *Meles anakuma*, ニホンジカ, ニホンカモシカ *Capricornis crispus*.

(平家平鳥獣保護区)

ニホンザル *Macaca fuscata*, ニホンジカ.

本調査の調査回数は1調査地につき年2回のみであり、地域の鳥類相を十分に把握できる調査頻度ではない(大迫ほか 1996)。また、種の識別や繁殖状況について詳細に明らかにするためには、標識調査も含めた精密な調査が必要である(大迫 1989)。しかし本調査のように、一時期に複数地点で同じ方法で鳥類相を把握する調査は、局所的のみならず広域的な鳥類相を把握できる利点がある。特に鳥獣保護区のように、過去の知見が蓄積されている地域で定期的に鳥類相調査を行うことは、鳥類をはじめとする自然環境の長期的な変化をモニタリングする上で有益と考えられるため、今後も継続的に調査を実施していく必要がある。

謝辞

表2 各調査地における出現種とその確認個体数 数字に下線がある種はその調査地で繁殖行動が確認された種を示している。

目	科	和名	学名	調査地点と調査時期					
				朝日鳥獣保護区		三ノ峰鳥獣保護区		平家平鳥獣保護区	
				春季	秋季	春季	秋季	春季	秋季
カモ	カモ	マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	0	1	0	0	0	0
キジ	キジ	ヤマドリ	<i>Symaticus soemmerringii</i>	0	0	0	0	1	0
カッコウ	カッコウ	ジュウイチ	<i>Hierococcyx hyperythrus</i>	0	0	<u>3</u>	0	0	0
		ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	0	0	<u>5</u>	0	<u>3</u>	0
		ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>	0	0	<u>2</u>	0	<u>2</u>	0
		カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>	0	0	<u>6</u>	0	0	0
ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	<u>8</u>	0	0	0	0	<u>1</u>
		アオバト	<i>Treron sieboldii</i>	1	0	<u>1</u>	0	<u>7</u>	<u>4</u>
ペリカン	サギ	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	7	1	0	0	0	0
		ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	2	0	0	0	0	0
タカ	タカ	ツミ	<i>Accipiter gularis</i>	1	0	0	0	0	0
		トビ	<i>Milvus migrans</i>	0	1	0	0	0	0
ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ	<i>Megaceryle lugubris</i>	0	1	0	0	0	0
キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	1	2	0	1	3	7
		アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	0	0	1	1	<u>3</u>	2
		オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	0	0	0	0	0	1
		アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	<u>1</u>	<u>2</u>	0	0	3	4
スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	<u>6</u>	0	<u>1</u>	0	<u>6</u>	0
	モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	0	1	2	0	0	0
	カラス	カゲス	<i>Garrulus glandarius</i>	0	8	7	0	7	5
		ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	<u>2</u>	4	0	0	0	0
	シジュウカラ	ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	<u>4</u>	<u>2</u>	0	0	1	0
		ヒガラ	<i>Periparus ater</i>	<u>4</u>	0	<u>3</u>	5	<u>3</u>	2
		ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	<u>1</u>	13	0	0	3	3
		コガラ	<i>Poecile montanus</i>	0	0	0	1	4	6
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	<u>52</u>	48	0	2	<u>14</u>	12
	ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	3	0	0	0	0	0
		コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	4	0	0	0	0	0
	ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	<u>4</u>	4	<u>33</u>	1	<u>10</u>	2
		ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	0	0	0	0	<u>1</u>	0
	エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	<u>13</u>	0	0	1	<u>5</u>	2
	ムシクイ	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	<u>3</u>	0	0	0	0	0
		メボソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>	0	0	<u>1</u>	0	0	0
		オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	0	0	0	0	<u>2</u>	0
	メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	<u>10</u>	2	0	0	1	0
	ミソサザイ	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	0	0	0	2	0	0
	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	0	0	0	0	0	4
	キバシリ	キバシリ	<i>Certhia familiaris</i>	0	0	<u>1</u>	0	0	0
	ヒタキ	マミジロ	<i>Zoothera sibirica</i>	0	0	<u>3</u>	0	0	0
		クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	<u>2</u>	0	0	5	<u>5</u>	1
		マミチャジナイ	<i>Turdus obscurus</i>	0	0	0	1	0	0
		オオルリ	<i>Cyanopitta cyanomelana</i>	0	0	0	0	0	<u>2</u>
		コルリ	<i>Luscinia cyane</i>	0	0	<u>13</u>	0	0	0
		キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	14	0	<u>2</u>	0	<u>1</u>	0
		ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>	0	2	0	0	0	0
		ノビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>	0	0	0	1	0	0
	カワガラス	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	1	0	0	0	0	1
スズメ	スズメ	<i>Passer montanus</i>	3	0	0	0	0	0	
イワヒバリ	カヤクグリ	<i>Prunella rubida</i>	0	0	0	1	0	0	
セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	<u>4</u>	2	0	0	0	0	
	セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	2	1	0	0	0	0	
	ピンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	0	0	1	0	0	0	
アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	0	20	0	1	0	0	
	イカル	<i>Eophona personata</i>	<u>2</u>	9	0	0	<u>9</u>	0	
	ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	0	0	6	0	0	0	
	カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	<u>21</u>	39	0	0	0	0	
	マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	0	0	0	2	0	0	
ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	<u>4</u>	<u>10</u>	0	0	0	0	
	クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	0	0	<u>8</u>	0	<u>1</u>	0	
スズメ	ヒタキ	(サメビタキ属sp.)	0	0	0	1	0	1	
スズメ	ムシクイ	(メボソムシクイ上種)	0	0	0	0	1	0	

表3 三ノ峰鳥獣保護区(秋季調査)における調査時間後の出現種とその確認個体数。数字に下線がある種はその調査地で繁殖行動が確認された種を示している。

目	科	和名	学名	確認個体数
スズメ	カラス	ホンガラス	<i>Nucifraga caryocatactes</i>	1
	シジュウカラ	ヨガラ	<i>Poecile montanus</i>	1
		シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	2
	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	1
	ヒタキ	クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	1
		マミチャジナイ	<i>Turdus obscurus</i>	1
		エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>	1
	ホオジロ	クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	1
	チメドリ	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>	<u>1</u>

現地調査は、下記の方に実施して頂きました。ここに記して感謝申し上げます。(五十音順、敬称略):藤本尚子, 松村俊幸, 三原学, 村上公輝, 横山大八。

引用文献

福井県安全環境部自然環境課(編). 2016. 改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物. 福井県安全環境部自然環境課, 福井.

福井県自然保護センター. 1995a. 渡り鳥保全調査報告 1992 年度: 鳥獣保護区の鳥類相 I. *Ciconia* (福井県自然保護センター研究報告) 4:1-8.

福井県自然保護センター. 1995b. 渡り鳥保全調査報告 1993 年度: 鳥獣保護区の鳥類相 II. *Ciconia* (福井県自然保護センター研究報告) 4:9-16.

福井県自然保護センター. 1996. 渡り鳥保全調査報告 1994 年度: 鳥獣保護区の鳥類相 III. *Ciconia* (福井県自然保護センター研究報告) 5:1-7.

福井県自然保護センター. 1999. 渡り鳥保全調査報告 1997 年度: 鳥獣保護区・休猟区の鳥類相 IV. *Ciconia* (福井県自然保護センター研究報告) 8:1-8.

福井県自然保護センター. 2001. 渡り鳥保全調査報告 1999 年度: 鳥獣保護区の鳥類相 V. *Ciconia* (福井県自然保護センター研究報告) 9:17-23.

福井県自然保護センター. 2002. 渡り鳥保全調査報告 2000 年度: 鳥獣保護区の鳥類相 VI. *Ciconia* (福井県自然保護センター研究報告) 10:1-8.

福井県自然保護センター. 2009. 渡り鳥保全調査報告 2008 年度: 鳥獣保護区の鳥類相 I. *Ciconia* (福井県自然保護センター研究報告) 14:1-9.

福井県自然保護センター. 2010a. 渡り鳥保全調査報告 2009 年度: 鳥獣保護区の鳥類相 II. *Ciconia* (福井県自然保護センター研究報告) 15:1-13.

福井県自然保護センター. 2010b. 渡り鳥保全調査報告 2007 年度: 鳥獣保護区の鳥類相 III. *Ciconia* (福井県自然保護センター研究報告) 15:15-22.

福井県自然保護センター. 2011. 渡り鳥保全調査事業 2010 年度: 鳥獣保護区の鳥類相 IV. *Ciconia* (福井県自然保護センター研究報告) 16:1-9.

福井県自然保護センター. 2012. 渡り鳥保全調査事業 2011 年度: 鳥獣保護区の鳥類相 V. *Ciconia* (福井県自然保護センター研究報告) 17:1-9.

福井県自然保護センター. 2013. 渡り鳥保全調査事業 2012 年度: 鳥獣保護区の鳥類相 VI. *Ciconia* (福井県自然保護センター研究報告) 18:1-11.

福井県自然保護センター. 2022. 2021 年度渡り鳥保全調査事業報告. *Ciconia* (福井県自然保護センター研究報告) 25:21-26.

福井県自然保護センター. 2023. 2022 年度渡り鳥保全調査事業報告. *Ciconia* (福井県自然保護センター研究報告) 26:23-26.

福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会(編). 1998. 福井の鳥とけものたち. 福井県県民生活部自然保護課, 福井.

環境省. 2015. 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律(平成 14 年法律第 88 号).

環境省. 2020. 環境省レッドリスト 2020 の公表について(令和 2 年 3 月 27 日付け報道発表資料). <http://www.env.go.jp/press/107905.html> (参照日 2023 年 1 月 11 日).

環境省. 2021. 鳥獣の保護及び管理を図るための事業を実施するための基本的な指針(令和 3 年 10 月 26 日環境省告示第 69 号).

川田伸一郎・岩佐真宏・福井 大・新宅勇太・天野雅男・下稲葉さやか・樽 創・姉崎智子・横畑泰志. 2018. 世界哺乳類標準和名目録. 哺乳類科学 58 (別冊): 1-53.

日本鳥学会目録編集委員会(編). 2012. 日本鳥類目録 改訂第 7 版. 日本鳥学会, 三田.

大迫義人. 1989. 鳥類相調査における捕獲, ラインセンサスと定点観察の特性. *Strix* 8:179-186.

大迫義人・納村力・多田雅充. 1996. 福井県の丘陵地における鳥類相の効率的な調査日数と調査時期. *Ciconia* (福井県自然保護センター研究報告) 5:39-45.